2025 年度 三草山ゼフィルスの森　保全事業報告

実績を枠内に記載

１　三草山ゼフィルスの森保全検討会議の開催（継続）

２回の検討会議の開催を予定する。

２回開催した。
【4 / 15】　主な議題：2024 年度活動報告、2025 年度活動計画（案）について
【12/17】　主な議題：今年度事業について

２　３ヵ年事業計画の実施（継続）

前年度に策定した 2023 年度~2025 年度の３ヵ年事業計画に基づいて、事業を実施する。

３ヵ年事業計画に基づいて、事業を実施した

３　保全作業【森の更新・管理など】

（１）広範囲の防鹿柵設置（継続）

３ヵ年事業計画では 2023 年～2025 年の３年間でゼフィルスの森全域に防鹿柵を設置する計画であった。2024 年度には東側約半分のエリアに防鹿柵を設置することができた。今年度は残りのゼフィルスの森西側エリアと中央エリアの防鹿柵設置線を確定し、そのうち西側エリアへの設置を行う。前年度に実施できなかった萌芽更新を行うため、中央エリアの設置は次年度に実施する計画に変更する。

西側エリアへの設置を実施した
3 月に設置済の東側エリア及び西側エリアの状況を専門家と確認したところ、化繊ネットによる既存柵や、既存柵と金網フェンスの接合部分からシカの侵入が認められたため、対策が必要であることがわかった

各エリア設置距離：

東側エリア　1345.5m
（既存柵 362.5m、新規 983.0m）

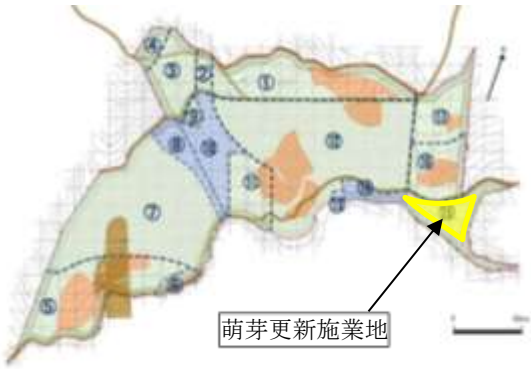
西側エリア　764.3m
（既存柵 210.0m、新規 554.3m）

中央エリア　約 400.0（概算）
（既存柵 0m、新規 400.0m）
※北西及び南東の２辺のみ

（２）萌芽更新施業の実施（継続）

３ヵ年事業計画では 2023 年～2025 年の 3 年間で合計 0.75ha（毎年 0.25ha）の範囲を施業する予定であったが、前年度は防鹿柵設置に注力したため、萌芽更新を行うことができなかった。そのため、今年度は当初予定通り防鹿柵で囲う小班 12 内の 0.25ha の施業を 1 月から 2 月にかけて実施し、3 ヵ年事業計画を 3 年間で 0.5ha の施業に修正する。

対象地を小班 15 内に変更して 0.25ha の施業を行った



【対象地変更の理由】

現地を改めて確認したところ、小班 12 は大径木が多く萌芽が期待しづらいことが分かった。小班 15 は林齢が若く、萌芽が期待できる。また、伐った材の搬出もしやすいため、小班 15 で施業を行う。

【施業概要】

・実施時期：2026 年 1 月～2 月
・実施者　：能勢の里山を繋ぐ会
・材の活用：クヌギ・コナラ等は薪・椎茸ほだ木として販売した

（３）山腹崩壊修復地の植生回復状況のモニタリング（継続）

西側エリアの山腹崩壊地の植生回復状況について、モニタリングを実施し、遷移の状況を記録しながら今後の管理計画の検討をはじめる。また、侵入が確認されている外来植物除去も継続して行う。

10 月 30 日に植生回復状況のモニタリングを藤原会長が実施。
今後は防鹿柵内外でのモニタリングを継続することとなった。

（４）広葉樹苗育成（継続）

今後伐採地や山腹崩壊地等に植樹することを目標に、前年度に採取したドングリおよび秋に採取するドングリを用いた苗づくりを行う。苗づくりに際しては、引き続きささゆり学園（能勢町立小中一貫校）に協力を求める。

今年秋にドングリ採取を行い、3 月に苗づくりのためのどんぐり播種を実施
過年度に作った苗木を、3 月に小班 16 のギャップ地でナラガシワ 9 本を植樹した。

（５）危険木の伐倒（新規）

登山道を中心に、枯死木等危険な木の伐倒処理を行う。

2 月の能勢の里山を繋ぐ会ボランティア活動で実施し、予定していた施業は完了した。

（６）ボランティア保全活動（継続）

例年通り、ボランティア定例活動で行われる次の団体に対して、支援を行う。

対象団体：

①能勢みどりすとクラブ

支援内容：活動への助成

②能勢の里山を繋ぐ会

支援内容：活動地と施設等の提供

上記 2 団体による活動内容例：

- 既存管理歩道の補修
- 防火帯刈払い（ゼフィルスの森外周）
- 防鹿柵内坪刈り
- 芽かき
- 苗畑管理
- 神山進入路補修（石畳づくり）
- 登山道・林内整備
- 防鹿柵メンテナンス
- 萌芽更新施業（ほだ木、薪づくり）
- 針葉樹林整備
- タガメの田づくり活動地保全活動（草刈りなど）
- その他

ボランティア団体への支援を実施した。

4　調査など

（1）ゼフィルス類等チョウ類の生息状況調査（継続）

・ゼフィルス類等チョウ類のモニタリング調査（継続）

日本鱗翅学会近畿支部・大阪公立大学と連携し、6 月中旬に実施する。

・チョウ類トランセクト調査（継続）

1992 年に地上権を設定して以降、これまで 7 回（1992、1995、1999、2001、2004、2015 年、2024）チョウ類トランセクト調査を実施してきた。前年度はゼフィルスの森全域に防鹿柵を張るため、施業前後の変化を確認することを目的に、専門家の協力を得て、チョウ類のトランセクト調査を実施した。今年度も引き続き調査を実施する。

・ゼフィルス類等チョウ類モニタリング調査：
6 月 17 日に実施
過去 12 年間の推移について、竹内副会長からご報告（別紙配布）
・チョウ類トランセクト調査：
14 回（4 月～10 月までの 7 か月間、各月 2 回ずつ）実施（調査結果は別紙添付）

（2）ゼフィルスの森動物種調査（継続）

大阪公立大学上田昇平准教授によるゼフィルスの森におけるライトトラップボックス法による蛾・甲虫類の調査を支援する。

9 月 18 日～20 日に実施

（3）ゼフィルスの森植生調査など（継続）

大阪公立大学藤原宣夫教授による、以下の調査を支援する。

① ゼフィルスの奇主植物の現存量評価（継続）
② 山腹崩壊地植生モニタリング調査（継続）
③ ネザサ地掻きモニタリング調査（継続）

① ゼフィルスの奇主植物の現存量評価（継続）
前年度に実施した調査結果を基に、樹名板を作成し取付を行った。
② 山腹崩壊地植生モニタリング調査（継続）
10 月 30 日に実施（再掲）
③ ネザサ地掻きモニタリング調査（継続）
10 月 27 日に実施

（4）タガメの田づくり活動地水生昆虫調査（継続）

大阪公立大学上田昇平准教授によるタガメの田づくり活動地における水生昆虫調査を支援する。

6 月 17 日、7 月 22 日、8 月 21 日に実施

（5）タガメの田づくり活動地耕作放棄地での水田再生の研究（継続）

大阪公立大学築瀬雅則助教によるタガメの田づくり活動地における水田再生の研究を支援する。築瀬助教には、タガメの田づくりで使用する稲苗の提供およびイベント実施時の講師としてご協力いただく。

研究の一環として、キヌヒカリ、虹のきらめき、古代米の稲苗の提供があり、田植え（5 月 18 日）・稲刈り（9 月 21 日）イベント時には講師として協力いただいた.
（調査結果は別紙添付）

5　普及啓発

（1） 三草山における環境教育（継続）

① 近隣の学校による実践

ささゆり学園（能勢町立小中一貫校）、関西大学第一中学校などが三草山ゼフィルスの森やタガメの田づくり活動地を利用して実施する環境教育に協力する。

② 都市部の子どもたちに対する実践

企業 CSR 活動等で都市部から子どもたちが訪れる機会を利用して、専門家による森で楽しみながら自然を体感して学べるプログラムを実施する。

① 近隣の学校による実践
- ささゆり学園 4 年生のハイキングに同行し、三草山を案内（6 月 12 日）
- 関大一中能勢プロジェクトをサポート（5 月 2 日：中 2、11 月 7 日：中 3、3 月 10 日：中 1）

② 都市部の子どもたちに対する実践
- エネクスフリートによる社会貢献活動「エネフリ Smile」をサポート（11 月 16 日、

（2）観察会の開催（継続）

例年実施しているゼフィルス観察会を実施する。

日程：6 月 15 日（日）

当日雨天予報のため中止し、6 月 22 日にボランティアのみでゼフィルス成虫の確認を行った.。

（3）タガメの田づくりイベント（継続）

三草山のふもとのタガメの田づくり活動地で行っている 3 回のイベントを実施する。イベント参加者に対して、ゼフィルスの森の紹介をし、森と水田などふたつの環境が必要な動物などの例を挙げながら里地里山一体で保全活動の必要性を伝える。

田植え：5/18（日）
稲刈り：9/21（日）

冬支度：12/7（日）

全てのイベントを予定通り実施。参加人数は以下の通り 田植え：55 名 稲刈り：53 名 冬支度：55 名

（4）ハイキングマップの作成（新規）

現在配布中のリーフレットをベースに、ゼフィルスの森内を回遊する散策ルートを検討し、整備を進めるとともに周辺を含めたハイキングマップを作成し、情報発信を行う。

原稿案を第 2 回検討会で確認後、修正を加えて 3 月に完成した。1000 部印刷。

（5）他団体が三草山ゼフィルスの森を活用して行うイベントのサポート（継続）

企業等による CSR 活動への支援、メディア取材への対応、ハイキングへの講師派遣等を行う。

次のイベントや調査のサポートを行った ・エネクスフリートによる社会貢献活動「エネフリ Smile」をサポート（再掲） （11 月 16 日、3 月 15 日）大阪府内の児童養護施設の子どもたちへの里山体験 ・森林総合研究所・北京林業大学調査協力（10 月 9 日） ナラガシワ及びコナラの遺伝的多様性と葉形態の解析（葉付き小枝の標本採取。採取した標本は、DNA 分析及び葉の形態分析に使用） ・ゆめほたる（国崎クリーンセンター併設普及啓発施設）が実施する「ゆめほたる里山学校 2025」（全 10 回）をサポート（11 月 29 日） 野生動物被害防除の講義及び実習（高柳敦氏の講義及び西側エリアでの防鹿柵設置実習）。受講生 14 名参加。

6　その他

（1）巡回活動（継続）

地元住民（5 名）に委嘱し、巡回活動（年 12 回）を実施する。

巡回活動を実施。

（2）地上権料支払（継続）

地権者に対して地上権料を支払う。

年度末に令和 7 年度分を支払済。

（３）能勢町との連携（継続）

観察会などのイベントを行う際には、能勢町観光協会や、能勢の里山活力推進協議会に協力をあおいで広報などを行い、都市部の市民にも参加を呼びかける。イベント実施時には能勢町が作成した環境学習ツール（冊子）を活用する。

10 月 4 日に行われた「能勢てっぺんフェスタ」へ（公財）日本自然保護協会とブースを出展し、当協会が行っている三草山ゼフィルスの森での保全活動について紹介した。

また、長年にわたり三草山ゼフィルスの森及びその周辺における保全活動や環境教育、関西大学付属第一中学校との遊休農地活用事業などの実績が評価され、11 月 3 日「能勢里山文化ゆめまつり」で行われた「令和 7 年能勢町長賞 表彰式」において能勢町より表彰された。